



南スーダンで自衛隊の武器使用の危機に 戦争法違憲訴訟・総がかり行動など続く

沖縄編に見る 戦争法の現実

ストッフ戦争法! 総がかり行動岡山は11月19日昼、晩秋岡山駅前前で戦争法廃止の街宣を行なった。11月15日の閣議で、南スーダン派遣の自衛隊に「駆け付け警護」の新任務を付与、現地の市民を巻き込み、殺し殺される戦闘の危険性が現実のものとなった。

11月24日夕刻、すでに陽も落ちて街明りの中で定例の街宣を行なった午前中は岡山地裁で安保法制違憲訴訟・第一回口頭弁論に参加、夕刻の街宣でも、自衛隊の南スーダン派遣で駆け付け警護の名の下、市民を巻き込んだ戦闘の危険性が現実味をおび、戦争法を既成事実化をすすめる暴走政治ストッフ



また、沖縄・高江ヘリパッド建設阻止行動に参加した県教組の仲間も「南国の平和な畑の中、機動隊の力すくすの排除に、ここは日本かと衝撃を受けた」と報告。県平和センターの挑戦で、軍事力で平和は守れない。憲法を活かし、活かさなければならぬ」と訴えた。

を訴えた。当日は福島代表の元気な姿もあり、8名(女性4)が参加した。戦争をさせない1000人委員会の奥津巨共同代表は「19日は日本を平和な国から戦争する国へ転換した屈辱の日だ。政治に無関心であつても、政治は私たちに無関心ではない」と声を上げることが重要と訴えた。



市民ら堂々と意見陳述

安保法制(戦争法) 違憲訴訟は全国12原告団で行なわれ、東京に続いて11月24日、岡山地裁で第一回口頭弁論が行なわれた。党員も個人原告やサポーターで参加。当日は市民4人など10人が意見陳述した。

「上・総がかり、下・違憲訴訟」

「ウランケーキか、プルトニウムドリンクか？」 ～米大統領選から見たもの～ 【寄稿】

ウォール街とべったりのコバンザメ・クリントンか排外主義差別主義者・トランプか、アメリカ国民の前に示された選択肢は残酷なものであったと言わざるを得ない。アメリカ社会は、新自由主義の名の下に「止めどない利潤追求」の結果、所謂「小金持ち」からも巻き上げ「中間層」も存在しない社会となった。絶望と不満が渦巻く中で、クリントンも含めた既得権益層の不満を巧みに利用した稀代の政治的投機屋トランプが土俵でうっちゃった選挙であると、一言で言い表せというなら、そういう選挙であったと言える。「民主党がB・サンダースを候補者に選んでいたなら…」という意見をよく耳にするが、私の彼自身への評価とは別に、そのような問題ではないと考える。社会主義者を自認するサンダース氏を支持した人々は今も地道に活動を続けている。かつて、「長時間労働」とたたかい世界の労働者と連帯したアメリカの労働者たち。世界最大の「資本天国」と見られるアメリカだが、その真裏は「世界最大の労働者大国」でもある。「クリントンかトランプか？」そんな不毛な争いを超越した「新しい潮流」を作り出すことは可能だ。前述した勢力をはじめとしたアメリカ労働者の蜂起に期待したい。翻って、日本ではどうだろう？ 私たち日本の労働者と革新政党の役割、その責任を感じずにはいられない。社会民主党岡山一区支部連合・宮原領平

党県連合の主な行動

- 10/30 全国一般岡山定期大会(野崎)
- 11/3 憲法公布記念のつどい(総がかり行動)
- 11/6 岡山地区党定期大会(武本)
- 11/8 「新報」読者会
- 11/15 アスベスト裁判傍聴支援
- 11/16 党中国ブロック幹事会(広島:武本)
- 11/18 時事問題懇話会(トランプ・ショック)
- 11/19 総がかり行動・弁護士会講演会
- 11/23 下市このみ後援会交流会参加
- 11/24 党県連合定期街宣(岡山)
- 11/25-26 党ブロック議員団会議(鳥取)
- 11/26 さよなら原発総会・記念講演(岡山)
- 12/4 おかやまいっほんイベント
- 12/10 戦争させない1000人委員会映画会



根室ながきり昆布 200g 1000円 社民党県連合まで

定例学習・読者会

「新報」読者会
12月13日(第2火)18時
弓之町「時事問題懇話会」
12月16日(第3金)18時
※聞きたい・話したい人歓迎
いずれも岡山社会文化会館

間の知恵だ。(の)

師

走、例年より早い雪だよりに紅葉から一気に冬支度へ。社会の変化も早く「暴走」「逆走」でも言うおうか。「この道しかない」と「理解できない」は言っても仕方ない」と、民主主義を置き去りだ▼「この道しかない」と暴走するとこの「引き返すことができない」政治は独裁に行き着き、およそ民主主義とは相容れない。いろんな意見を聞き、思考を豊かにすることを排除する道の行き着く先は、歴史が示すところだ▼このとき、オバマより早く30年前に「核兵器廃絶宣言」をした考古学研究会の態度に学ぶことは大きい。恐竜や埋蔵物の過去の検証から未来を展望し、警鐘を鳴らしたものだ▼戦後70年を超えて守ってきた平和主義が一内閣によって危機にあり。戦争法の下、初めて駆け付け警護なる武器使用の任務を課せられた南スーダン派遣の自衛隊は、現地市民を巻き込み、銃口を向けるのか。銃口から平和は生まれないことを考古学から読み取るのも人間の知恵だ。(の)